

戦略的イノベーション創造プログラム  
(SIP)

2023年度

研究開発実施報告書

SIP 課題名「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する  
プラットフォームの構築」

研究開発テーマ名「D&I 社会実現のための学び方・働き方に  
関する実証研究」

研究開発期間： 2023年10月1日 ～ 2024年3月31日

研究開発責任者	氏名	石井クンツ 昌子
	所属機関	国立大学法人 お茶の水女子大学
	部署	
	役職	理事・副学長

## 研究開発成果等の概要

### 【実証研究 1：高校生を対象とした進路選択に関する大規模調査】

・2023 年度は高校生を対象とした進路選択に関する大規模調査を実施するための予備調査を計画した。予備調査は現役の大学生に対する進路選択の時期や、D&I の意識調査を行い、高校生対象の調査の論点を洗い出すことを目的としている。現在、2024 年度早期に予備調査を実施する準備を進めている。他にも、実証研究 1 では質問紙調査へ向けて、分析手法を検討して、記述統計の他に多変量分析についても考慮しながら調査票の項目の準備を進めた。

### 【実証研究 2：知・経験の D&I 実現のための家事支援】

・2023 年度は、既に実施した家事動作調査の映像データを用い、2024 年度に実施する調査設計と分析方法を検討した。ポストコロナにおける在宅勤務等の時間と場所にとらわれない働き方の現状については、2024 年度に「ポストコロナにおける在宅勤務の現状調査（アンケート調査）」と「時間と場所にとらわれない働き方に関する企業調査（企業インタビュー調査）」を実施する。そのため、コロナ前とポストコロナの働き方に関する先行研究の収集、調査票の作成準備、企業インタビューに向けた情報収集を行った。さらに実証研究 2 では、家事動作調査の準備として、既に所有している映像データをもとに、新たな分析方法を検討した。

・家事動作調査の実施場所を本学と連携実績のある福井県と決定し、夫妻の家事動作の違いをより詳細にできる有効な分析方法として、調査対象者は、既に福井県で実施済調査と同じ対象者に依頼し、家事動作（調理動作）の変化も分析に加えるよう準備を進めた。

### 【全体：キックオフシンポジウム・意見交換会の開催、報告書の作成、プロジェクトウェブサイト構築の準備】

・2024 年 2 月 16 日に「D&I 社会実現のための学び方・働き方に関する実証研究」キックオフシンポジウムと意見交換会を行なった。ご来賓として内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局審議官藤吉尚之氏、(株)日本総合研究所プリンシパル・SIP サブプログラムディレクター東博暢氏、三重大学地域イノベーション学研究科教授・特命副学長・SIP プログラムディレクター西村訓弘氏（ビデオメッセージ）からご挨拶をいただいた。本研究開発責任者石井クンツ昌子の事業紹介に続き、実証研究 1 の責任者である加藤美砂子理事・副学長と実証研究 2 の責任者である斎藤悦子副理事・ジェンダード・イノベーション研究所教授から各研究の紹介があった。またシンポジウム後半には、(株) JERA 執行役員 企業評価創造担当の藤家美奈子氏から「D&I からイノベーションを創出する JERA の取組」、福井県未来創造部女性活躍課課長の田中智美氏から「女性の活躍を応援する福井県の取組」についての基調講演をいただいた。シンポジウム後に開催した意見交換会では、本 SIP 事業の他のサブ課題の開発責任者や内閣府、JST の皆様にご参加いただき、活発な情報の共有や意見交換の場となった。本シンポジウムはハイブリッド形式で開催したが、対面とオンラインを合わせて全体で約 160 名の参加があった。シンポジウムを通じ広く社会に発信することで、今後の研究や事業に多大な示唆を与える内容となった。事後にはキックオフシンポジウム報告書を作成し、広く配布した。

・キックオフシンポジウムをきっかけに本プロジェクトウェブサイトの構築準備が加速した。